

# 下野竜也 × 広島ウインドオーケストラ

「嬉しい大事件だ！  
下野竜也氏の広島ウインドオーケストラ音楽監督就任は嬉しい大事件だ！  
吹奏楽が芸術になる希望が此处に在る！」

鈴木英史 (作曲家)

「《水を抜けて》が流れ始めた途端、あなたの耳は釘づけになる！  
ヘビーローテーション必至のアルバムだ。」

国塩哲紀 (コンサートプロデューサー)

2011  
**4/30** ±  
ON SALE

## 収録作品

### 》》水を抜けて [2006年版] / 平石 博一

一貫したテンポ設定の中、工夫が凝らされた楽器の配置や、ユニークな技法・構成などにより生み出されるサウンドが、これまでの吹奏楽のイメージを一新させる本物のミニマル・ミュージック。

### 》》シリウス / 糺場 富美子

おおいめ座の恒星である“シリウス”をタイトルとし、宇宙の神秘性を思わせる前半のAndantinoと、雄大かつ輝かしいAllegroの二つの部分から成る印象的な作品。

### 》》響宴I & 響宴II / 保科 洋

静かな第1部と力強い第2部という構成。3年に渡る変遷の中で完成されたこの作品は、連作としての演奏機会がほとんどなく、貴重な収録となった。優美ともいえる独特な和声、力強さの中にも常に叙情性を感じさせる保科洋の代表的作品。

### 》》ウインドオーケストラのための交響曲 / 兼田 敏

3楽章からなるこの交響曲は兼田敏の集大成といえる。分厚いオーケストレーションだけに頼らない高度な作曲手法は吹奏楽が表現し得る「音楽」の一つの姿を示した。

## プロフィール



### 下野 竜也 しもの たつや 指揮者 Tatsuya Shimono, Conductor

1969年鹿児島生まれ。2000年東京国際音楽コンクール(指揮)優勝と齋藤秀雄賞受賞、2001年ブザンソン国際青年指揮者コンクールの優勝で一躍脚光を浴び、以降、国際的な活動を展開。国内の主要オーケストラに定期的に招かれる一方、ミラノ・ヴェルディ響、ストラスブルグフィル、ボルドー管、ロワール管、ウィーン室内管など各国のオーケストラに次々と客演を重ね、2009年はローマ・サンタ・チェチーリア管、チェコフィルハーモニーの定期演奏会に招かれ好評を博した。2010年3月にはシュツットガルト放響へのデビューを飾り、10月にはカンヌPACA管との再客演で成功を収める。2011年4月には南西ドイツフィルへのデビューが決定している。2006年に読売日本交響楽団の初代正指揮者に迎えられ、ヒンデミットとドヴォルザークを軸としつつ新作初演まで取り組む意欲的な姿勢とプログラム構成には特に定評がある。2010年のサイトウ・キネン・フェスティバル松本では、レジデント・コンダクターとして、子どものための音楽会などを担当したほか、小澤征爾氏に託され、オーケストラ演奏会4公演を指揮。責務を見事に果たし、フェスティバルに貢献した。さらに続く12月には、ニューヨーク・カーネギーホール公演にも同行し、2公演の前半を指揮してアメリカデビューを飾った。

2007年からは上野学園大学音楽・文化学部教授も務めるなど後進の指導にも情熱を注いでいる。さらに2011年1月、広島ウインドオーケストラの音楽監督に就任。吹奏楽の活動へも基盤を築いた。

最新盤として、2010年6月、チェコフィルとの演奏を収めた『R.シュトラウス：英雄の生涯』のCDがエイベックス・クラシックスよりリリースされた。全作品を指揮した吹奏楽CDリリースは、今回初となる。

## 広島ウインドオーケストラ Hiroshima Wind Orchestra

広島ウインドオーケストラは1993年、国際平和都市広島を中心に活躍しているプロ演奏家によって設立された。吹奏楽のすばらしさを人々に伝えたいという活動理念を掲げ、年2回の定期演奏会を中心に、各地における音楽鑑賞教室ならびに楽器演奏講習会、アンサンブルによる慰問等、地域に根差した活動を行っている。

1998年に木村吉宏氏を音楽顧問に迎え、邦人作品・オーケストラ作品の新アレンジ作品集『戦場にかける橋』『バレエ音楽“道”』をCDリリース。また吹奏楽オリジナル作品CD『バンド・クラシック・ライブラリー』(BCL)は12枚100曲以上収録。廃盤やモノラル音源の作品を中心に新たな吹奏楽史を残すシリーズとして、国内外で高い評価を得ている。

これまでに渡辺一正、保科洋、A.キューネル、故・兼田敏、小林泰一郎の各氏を指揮に迎え、近年では吉田行地、時任康文氏といった吹奏楽・オーケストラに精通し活躍する指揮者との共演を積極的に行ってきた。

2008年世界的指揮者下野竜也氏と初共演。2011年1月より下野氏を音楽監督に迎え、吹奏楽の持つ可能性を追求し、広島ウインドオーケストラ独自の響きを広島の地から世界に向けて発信する。

